

委員会報告(案) 「業務用陸上無線通信の高度化等に関する技術的条件」のうち「6.5/7.5GHz 帯等可搬型システムの導入」のうち「400MHz 帯災害対策用可搬型無線システムの高度化等に係る技術的条件」の意見募集の結果及び意見に対する本委員会の考え方

(平成 27 年 11 月 21 日から同年 12 月 21 日 意見募集)

【意見提出：3件】

意見提出者	意見	委員会の考え方
個人	<p>400MHz帯災害対策用可搬型無線システムに関する報告書(案)を見せてもらったが、電気通信事業用と公共事業用に分けて考える意味があるかです。</p> <p>周波数帯も同じで周波数も同じところを考えているならば、無線機は同じ機械を使った方が安くなります。</p> <p>この規格を見た限りでは、電気通信事業用のOFDM方式だけにすることをお勧めしたい。違う二つの規格を作るということは市場が二分割されて無線機の値段が高くなります。</p> <p>デジタル防災無線等がなぜ普及しなかったかというと値段が高いからです。電気通信事業用はNTTが必要な数をそろえれば量産効果で値段は下がります。</p> <p>どの無線機も同じだが量産化で値段が下げられるかにつきます。iPhoneをみたら年間に1億台以上生産しているが日本の携帯電話各社は一体どれだけ生産しているかです。</p> <p>これはすべての無線機に言えることです。特注品は値段が高いのです。負担するのは国民の血税です。規格を統一して可能な限り同じ規格にすべきです。</p> <p>これは200MHz帯や260MHz帯等の無線機も同じです。</p> <p>可能な限り多くの無線機を生産して量産効果を生かさないと日本の無線機は沈みます。確かに一定の需要はあるだろうが可能な限り規格を統一する必要性を訴えているのです。</p> <p>NTTが一度にたくさん生産させて自治体に貸し出しておくという手もありますよ。</p> <p>これが分からない限り日本の無線機は沈んだままです。メーカーも絞り込んで、できる限り1社が多くを生産すべきです。規格が変われば他のメーカーも参入可能です。</p> <p>そうした考え方がないから日本は負けてきたのです。部品も含めて考えて大量生産を考えないといけません。それができないから日本の無線機は負け続けているのです。</p> <p>これは新たな無線の企画書(技術的条件)を作る段階から考えないといけません。</p>	<p>御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>もし、これが良いと分かれば輸出することも可能となるでしょうね。そのためには規格を絞り可能な限り一本化することです。</p> <p>この話は報告書全体に及ぶ話であり、ページ数等は書かなくてもわかると思うのです。</p> <p>周波数もデジタル化に合わせて考える必要があると思うのです。アナログからデジタルへは大きな飛躍なので相当綿密にやらないといけないのです。当然にこれからの移動無線はどうするのか等も考えながら新たな周波数割当を考えないといけません。</p> <p>それが日本の将来を決めるからです。</p>	
ソフトバンク株式会社	<p>今回のシステムは主として災害時に利用されるシステムであり、今回当該システムが利用する 400MHz 帯は、ITU が IMT 帯域 (450-470MHz) に指定する国際標準バンドであり、3GPP における Band31 でもあることから、将来における移動通信用周波数のひっ迫を考慮し、将来的には通常時における移動通信システムとの共用も視野に入れて導入するのが望ましいと考えます。</p>	<p>当委員会は、技術的条件の検討を所掌としており、周波数割当に関する課題は総務省において判断されるべきものと考えます。</p>
Wireless City Planning 株式会社	<p>今回のシステムは主として災害時に利用されるシステムであり、今回当該システムが利用する 400MHz 帯は、ITU が IMT 帯域 (450-470MHz) に指定する国際標準バンドであり、3GPP における Band31 でもあることから、将来における移動通信用周波数のひっ迫を考慮し、将来的には通常時における移動通信システムとの共用も視野に入れて導入するのが望ましいと考えます。</p>	<p>当委員会は、技術的条件の検討を所掌としており、周波数割当に関する課題は総務省において判断されるべきものと考えます。</p>